

#### 第4回生理学研究所 Motor Control 研究会参加報告記

京都大学大学院 人間・環境学研究所 共生人間学専攻 認知・行動科学講座  
理学療法士 上原信太郎 (会員番号: 35869)

第4回生理学研究所 Motor Control 研究会が、愛知県岡崎市にある自然科学研究機構生理学研究所で開催されました。この研究会はその名のとおり、特に運動制御研究に焦点を当て、最新の知見や未解決問題を中堅・若手の研究者内で共有するとともに、同研究に携わる若手研究者の研鑽の場として設けられた研究会です。平成19年に第1回目となる研究会が開催されて以降、毎年継続的に開催されています。

3日間にわたって特別講演、シンポジウム、教育レクチャー、一般演題発表が行なわれ、それぞれ密度の濃い活発な議論がなされるのが本研究会の特徴です。もう一つの特徴は、大学院生を含む若手研究者が、ボランティアとして会の運営に積極的に関わる点にあります。これには異分野研究者間の交流を深め、コミュニティ内のネットワークを広げる狙いがあります。今年の研究会には過去最多の140名の参加者が集まり、そのうち私を含む47名が運営ボランティアとして登録していました。臨床を離れ、大学院に進学してから3年目を迎えた私は、これまでに行った研究成果を発表する場として、また、人的交流を深めながら新しい知識を得ることのできる貴重な場として、本研究会に参加させていただきました。

初日は理化学研究所の伊藤正男先生による特別講演がありました。先生がこれまでに手がけてきた小脳神経回路に関する研究成果から現在の研究テーマに至るまで、その過程を丁寧にご講演いただきました。その講演内容からは先生の研究に対する真摯な姿勢を感じることができ、学術的知識は当然のことながら、教科書や論文からではうかがい知ることのできない大切なことを学びました。2、3日目は、教育レクチャー、シンポジウム、一般演題発表が休む間もなく行なわれました。「神経系による運動制御研究の最前線」という題目で行なわれたシンポジウムでは、筋緊張制御と運動制御といったリハビリテーションに関わりの深い内容についても紹介され、中枢神経疾患の病態解釈や治療方法の発展に繋がりうる基礎的知見を得ることができました。一般演題発表は、1分間の口述発表に続いてポスターでの発表を続けて行なう形式が取られました。ポスター発表時間は2~3時間確保されていたため、大きな学会では難しい密な議論が可能となり、運動制御という興味を一にする他の参加者から親身かつ的確なアドバイスを頂くことができました。

本研究会に参加することで、今後の研究の発展を促すような刺激的な時間を過ごすことができました。また、研究会で得られた最新の研究成果の知見は、私の中の臨床的感性を刺激し、新たな臨床的発想を生み出す絶妙なスパイスのように感じました。来年も是非、第5回 Motor Control 研究会に参加し、基礎と臨床との双方向性研究体制の可能性を模索したいと思っています。